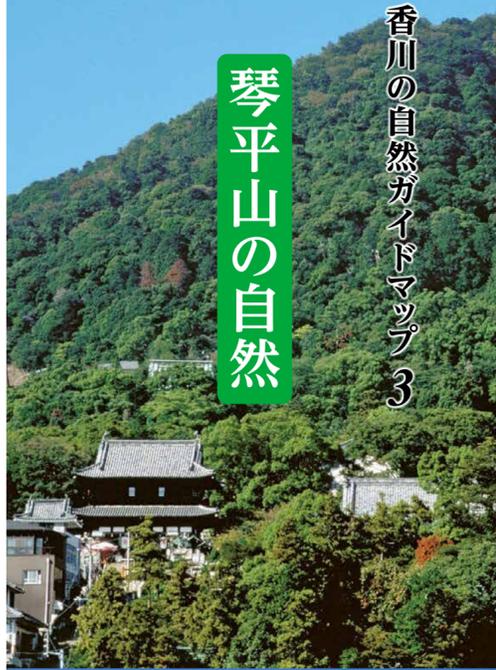


# 琴平山の自然



撮影日2018年10月28日

# 琴平山新聞

創刊号  
2016年(平成28年)10月28日  
発行所 香川県 〒760-8570 高松市番町四丁目1番10号  
企画・編集 企業 編集 自然史博物館 香川県 〒760-0008 高松市中野町23番2号  
NPO みんなでつくる自然史博物館 香川県 〒760-0030 高松市玉塚町4番10号  
Tel 087-831-1111  
Tel 087-813-4933  
Tel 087-821-3608

### ご挨拶

琴平山の森は、古くから金刀比羅宮とともに大切に守られてきた鎮守の森で、原生林に近しい森林が残されています。そしてここには、鳥類、哺乳類、陸員、植物、昆虫等、どの生き物も県内に生息している種が多く見ることができ、生き物の宝庫となっています。昭和25年、琴平山は五色台、紫雲山等とともに、日本最初の国立公園「瀬戸内海国立公園」に追加指定されました。また、山頂からの展望が良く、全国にもまれな森林植物であることなどから、昭和26年に、国の名勝・天然記念物「象頭山」として指定されたこととなりました。このような、琴平山の自然に触れ合う時の一助となるようこのガイドマップを作成しました。さあ、ガイドマップを片手に琴平山の自然を満喫してください。

### 象頭山の山頂部に池がある理由

一般的に山上に降った雨水は、地下に染み込んで流れていき、しかしこの山頂に讃岐岩質安山岩を持つ山の場合には違っ、安山岩は風化すると粘土質で水を通しにくい表土となり、山頂の平らな場所では凹地に水たまりで池ができることになる。左に地質と水の相性を、下に琴平山の地質図を示してみました。

地質	水の相性		解説
	透水性	保水性	
1 讃岐岩質安山岩	岩石	×	岩石自体は不透水性(水を通さない)
	岩盤層	△	岩の縦方向の節理(割れ目やひび)に沿って、水が浸透しやすい
	風化土	△	粘土質のため難透水性(水を通しにくい)で、保水性はよい
2 花崗岩	岩石	×	岩石自体は不透水性(水を通さない)
	岩盤層	△	岩の節理に沿って、水が浸透しやすい
	風化土	○	粘土質を含むが砂礫質のため、安山岩風化土よりも透水性は高い
3 崖堆積物(崩積土)	△	○	安山岩の崖が風化土と一緒に崩れて形成された、礫を含む粘土質の土。保水性はよい

## 琴平山の鳥類

香川県では、これまで299種の鳥類が確認されている。琴平山系(大麻山を含む)では、そのうち109種(36%)が確認されている。琴平山の森は、金刀比羅宮の森として、また、国立公園や特別鳥獣保護区として守られているため、森林性の鳥類にとって最高の楽園となっている。

琴平山には多種多様な植物が生育していることから、植物の美や昆虫類を餌にしている鳥類の種類が多い。特に、常緑広葉樹林を中心とした森林では、アオバズミやツバメなどのキツキツが多く見られることが魅力の一つとなっている。また、琴平山では季節ごとに異なる種類の鳥類の観察を楽しむことができる。よく観察できる留鳥や代表的な渡り鳥を紹介する中で、参考できる留鳥や観察の観察場所は、人影が少なく、静かになつじ丘や、図書館の西側にあるツバメやクヌギの巨木林がオススメだ。本宮を経て、白峰神社、奥社に至るコースもよい。琴平山では、毎月第3日曜日に「日本野鳥の会香川県支部が定例の探鳥会を開催している」。

留鳥	フクロウ、ミサゴ、モズ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒロ、ムクドリ、アオゲラ、コゲラなど
夏鳥	アオバズク、サンコウチョウ、オオルリ、キビタキ、ヤブサメ、センドアイシキイなど
冬鳥	ノスリ、ハイタカ、ルリビタキ、アトリ、ウソ、キウイダケ、クロジなど

「ゴッホウ ゴロツク ゴッホウ」「ホツ、ホツ」

## 琴平山の哺乳類

香川県では、これまで36種の哺乳類が確認されている。琴平山には、そのうち23種(64%)が生息していると推定されている。

### 【琴平山の哺乳類】

ヒミズ、コウベクモグサ、キクガシラコウモリ、アブラコウモリ、ニホンザル、ノコギリ、ニホンリス、ムササビ、スミスネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、トリスミ、クマネズミ、ハツカネズミ、キツネ、タヌキ、アライグマ、ハクビシン、チョウセンイタダキ、ニホンテン、ニホンシカ、イノシシ

### 琴平山と野ネズミ

地形的に見ると琴平山は、飯野山や五色台、尾島と同じく、もともと独立した山を参照してきた。地形的に見ると、飯野山や五色台、尾島は平野部で孤立しているのに対し、琴平山は南側の山脈に連続している。飯野山や五色台、尾島などに見られるが、スミスネズミが生息しているのは、飯野山に加えてスミスネズミが生息している範囲を広げて四国全体を覆ったといえる。スミスネズミは、四国山地と、四国山地に引かれ続いた山塊の地域にしか生息していない。口野ネズミとも呼ばれる。その生息場所や移動能力も様々で、四国山地やその周辺の中で分散移動能力が最も高い野ネズミは平野部の孤立した山にも分布を広げることができ、スミスネズミは生息場所が狭い。このように移動分散能力も低い。分布域が狭い。このような両種の生態的違いが、アカネズミと異なる山アカネズミとスミスネズミが両行なう。棲み分けが非常に難しい存在だといえる。

### 琴平山のツバメを食べる哺乳類

イノシシ、タヌキ、アライグマ、ハクビシン、ムササビ、ニホンリス、アカネズミ、ヒメネズミ

## 琴平山の陸貝

香川県では、130種のカタツムリの仲間が記録されている。琴平山ではそのうち66種(50%)が確認されている。面積に対する種類の多さは、全国的にも他に例がなく、これでも多くの研究者が調査に訪れている。

### 足元に眠る宝の山!

カタツムリの仲間(以下、「陸員」という)の分布から見た琴平山の魅力は大きく3つある。一つは、地理的に見れば、讃岐山脈から相当離れた森林であるにもかかわらず、山地性の陸員が多く分布していることだ。具体的には「アママイマイ、トサビロドマイマイ、コンヒラスミレ、アワマイマイ、オキキタキ、オキキタキ」が、平野部の森林ではまともに見えていない場所では、県内ではほとんど見られていない。中でも「アママイマイ」は「日本4大カタツムリ」の一つとして立派な大型のカタツムリである。しかし、夜行性のため昼間の観察で這うのを見つけるのは難しい。二つ目は、陸員の種類の多さだ。山地性の種だけでなく、丘陵地性の種や平地地性の種も含まれている。

種名	分布	殻高	殻径
アママイマイ	日本(四国)	約35mm	約60mm
トサビロドマイマイ	日本(本州(中部地方以西)、四国、九州)、朝鮮半島	約5-10cm	
ゴマオカトシ	日本(四国)	約2mm	約1.5mm

## 琴平山の植物

琴平山の森は、古くから金刀比羅宮とともに大切に守られてきた鎮守の森で、隣の象頭山とともに国の天然記念物に指定されている。原生林に近い姿が守られており、郷土の自然の歴史を知ることのできる最高の観察地となっている。

### 【琴平山の主要な樹木】

- 落葉広葉樹(高木) イヌシデ、アカシデ、コナラ、ナラガシワ、クスギ、アベマキ、クリ、ケヤキ、ムクゴ、カナクノキ、エドヒガン、ヤマザクラ、ウツミズクラ、ウツミズノキ、ネムノキ、アケボノソウ、カラスザンショウ、イロハモミジ、ウリハダカエデ、ムクロジ、アワブキ、タマシズキ、クマシズキ、マハアオダモ
- 落葉広葉樹(小高木) イヌビフ、キヤン、ネジキ、サワフタギ、クサギ、ヤマナガ
- 落葉広葉樹(低木) サイコクツツネヤナギ、コウノ、ダンコウバイ、ケクロモジ、ヤマブキ、イブキモツク、リウウツク、マルバウツク、イヌザンショウ、サンショウ、ヤマウルシ、ガンバ、タラノキ、スノキ、ナツハゼ、ツツク、ナツク、コバノガマズミ
- 常緑広葉樹(高木) ヤマモモ、アラカシ、シラカシ、ツラジロガシ、イチイガシ、シリブカガシ、ツブラジイ、オガタマノキ、クスノキ、ヤブツケイ、タブノキ、カゴノキ、シロタモ、イヌガシ、イヌノキ、ヤブツバキ、サカキ、モッコク、ヒメユズリハ、クロガネモチ、ナナミノキ、モチノキ、タラウウ、カレハレミ、ミズミズパイ
- 常緑広葉樹(小高木) シキミ、リンボク、カナメモチ、クロバイ、ネズミモチ
- 常緑広葉樹(低木) センリョウ、ツルシキミ、ナフシロクノキ、コショウノキ、クヌギ、アトギ、アオキ、ヤツデ、サンショウ、ヤブコウモリ、マンリョウ、イズセンリョウ、アトドモ
- 落葉つる性樹木 イワガラミ、フジ、ナンジャ
- 常緑つる性樹木 イタビカズラ、ヒメタイバキ、サネカズラ、ムベ、キツタ、テイカカズラ

## 知っておきたい! 琴平山の代表的な植物

種名	分布	樹高	解説
イチイガシ	日本(本州(関東以西の太平洋岸)、四国、九州)、済州島・台湾・中国	樹高 大きなものは30mを超える。	県内では、琴平山と藤原神社(高松市)2ヶ所だけに生息する常緑広葉樹。本宮と社務所の北側に見られる。縄文時代の遺跡から発見されており、かつては県内にも広く自生していたと考えられる。
ツブラジイ	日本(本州(関東地方南部以西)、四国、九州)、朝鮮半島南部	樹高 10-20m	県内各地の寺社林に点々と自生する常緑広葉樹。琴平山は、まとまって自生している貴重な生育地。かつては県内に広く自生していたと考えられる。
エドヒガン	日本(本州、四国、九州)、朝鮮半島	樹高 15-25m	県内では、琴平山とまんのう町(美合地区)、高松市塩江町の3ヶ所だけに自生する。奥社の手前などで見られる。春の彼岸頃に開花する。サクラの野生種。
コンヒラスミレ	日本(本州(中部地方以西)、四国、九州)、朝鮮半島	草丈 約5-10cm	昭和23(1948)年に、琴平町で発見された多年草。丘陵地から山地の明るく乾燥した林床、林縁で見られる。シハイスミレの品種で、葉の中央部にだけ斑が入る。4月-5月に開花

## 琴平山の昆虫

香川県では、これまで5,000種以上の昆虫が確認されているが、はっきりした種数は分かっていない。琴平山からは約3,000種の昆虫が記録されている。日本昆虫学会自然保護委員会により、「昆虫類の多様性保護のための重要地域」に選定されており、学術的に見ても非常に貴重な森林であることが分かっている。

### 昆虫の世界から、森林のバランスを考える

琴平山の昆虫は種数が大変多く、希少な種も少なからず含まれている。この森林の価値や特徴を知ろうと、特に重要な昆虫10種をまとめた。

分布	和名	備考(生息地が限定される理由など)
世界で琴平山にしかない昆虫	①ソウサクムクラチビゴミシ ②コバヒラオオハナナガハネカクシ	●地理隔離によって、独自に進化した昆虫 ●目(複眼)や後ろ羽が退化して飛べない
香川県で琴平山にしかない昆虫	④ベーツヒラカミキリ ⑤キイロヤマカミキリ	●幼虫は、シイ類などの樹木の枯死部を食べる ●安定して存続してきた照葉樹林に生息する
国内で数ヶ所にしか記録のない昆虫	⑥オウバタマコメツキ ⑦ヤマカギバライ	●捕食性(他の生物を殺して食べる) ●生息地が限定される理由は不明
	⑧マスカバナミシヤク ⑨トシマカバナミシヤク ⑩サスキリガ	●いずれも蛾の仲間 ●幼虫は、植物の葉を食べる ●生息地が限定される理由は不明

### オウバタマコメツキ

分布 本州(近畿以西)、四国、九州  
大きさ 25mm-35mm  
採集日:1972年9月21日  
琴平山で採集された個体

### トシマカバナミシヤク

分布 日本(関東地方以西)、四国、九州、鹿児島、台湾、タイ、ネパール、インド北部  
大きさ 18~23mm  
解説 県内では、琴平山と藤原神社(高松市)2ヶ所だけに生息する常緑広葉樹。本宮と社務所の北側に見られる。縄文時代の遺跡から発見されており、かつては県内にも広く自生していたと考えられる。

## 自然観察のマナー

- 自然を知るには、まず五感から!  
動植物をよく知るには、顔を近づけて見るだけでなく、手で触れ、においをかいでみるなど、五感を使って観察してみてください。
- 自然の中で耳を澄ませてみよう!  
野鳥の声や虫の音、風の音や川のせせらぎなど、自然のすばらしい音に耳を澄ませましょう。音楽を流したり、ラジオを聞きながら歩かないようにしましょう。
- 山火事に注意しましょう!  
雨の少ない瀬戸内の森は一年中乾燥しています。森の中での火気は厳禁です。タバコが決められた喫煙場所以外では吸わないようにしましょう。

## これには注意しよう!

- 危険な生き物には近づかないように!  
スズメバチやマムシなど危険な生き物には注意しましょう。見かたたら驚かさないように、ゆっくりとその場を離れましょう。
- イノシシに出合ったら! 襲われないための3原則  
一つ 何もせず放っておく(無視をする)と、ほとんどの場合、向こうから逃げていきます。  
二つ ゆっくりと後ろに下がって、静かにその場を立ち去るか、物陰に隠れましょう。  
三つ 決して威嚇したり、追い払ったりしないでください。絶対にエサは与えないようにしましょう。イノシシが人を襲うようになります。

- 自然の中に入るにきの七つ道具!  
長そで・長ズボン、足元がしっかりした靴、帽子、軍手、水筒、雨具、健康保険証
- 疲れたら休もう、予定を変えよう!  
のんびり、ゆったり歩くことが自然観察の基本です。特に、夏は熱中症に気を付けましょう。カミナリが聞こえてきたり、急に天候が悪くなりそうな場合には、無理は禁物です。早めに避難しましょう。

**冬 春** ベーツヒラタカミキリ  
 県内では、琴平山の常緑広葉樹林でしか発見されていない。幼虫はカシ類、シイ類などの木質部を食べて育つ。

**冬 春** ヤブヤンマ  
 成虫も幼虫(ヤゴ)も薄暗い環境を好むため、琴平山は本種にとって好生息地となっている。

**冬 春** ゾウスザンメクラチビゴミムシ  
 琴平山と象頭山にしか分布していない甲虫の一種。湿った地中に生息する。

**冬 春** キイロミヤマカミキリ  
 県内では、琴平山の常緑広葉樹林でしか発見されていない。幼虫はシイ類の木質部を食べる。

**冬 春** キイロミヤマカミキリ  
 県内では、琴平山の常緑広葉樹林でしか発見されていない。幼虫はシイ類の木質部を食べる。

**冬 春** コンピラオオコバネナガハネカクシ  
 琴平山でしか発見されていない甲虫の一種。湿った地中に生息する。

**冬 春** ジムグリ(幼蛇)  
 主にヒメズミなどの小型哺乳類を食べる。幼蛇は、鮮やかな赤色をしている。

**冬 春** オオゴキブリ  
 日本最大のゴキブリ。原生林や良好な二次林に生息し、朽木を食べる。

**冬 春** アオダイショウ(幼蛇)  
 木登りが得意で、樹上の鳥の卵やヒナなどを食べる。古い民家の屋根裏や縁の下でも見られる。

**冬 春** ニホンヒキガエル  
 夜間に林床を這う昆虫やミミズなどを食べる。オタマジャクシが生息できる水環境が少ないため、個体数が少なく、見つけにくい。

**冬 春** アスキガイ  
 鎮守の森にしか生き残っていない。乾燥から身を守るアタを持つ。

**冬 春** セトウチマイマイ  
 平地や里山では大型で殻の色がほとんどであるが、琴平山では小型で殻の型が生息している。

**冬 春** ツムガタギセル  
 鎮守の森にしか生き残っていない。丘陵地性の種。絶滅危惧Ⅱ類。

**冬 春** コシビロダンゴムシの一種  
 日本古来のダンゴムシ。自然が豊かで多様な環境を好み、オカダンゴムシの半分ほどの大きさ。

**冬 春** アカネズミ  
 夜行性で、植物の柔らかい根や種子、昆虫などを食べる。主に地上で生活する。

**このガイドマップについて**

- 琴平山には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
- このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気をつけてください。
- この地図はデフォルト表示されていますので、距離の目測には適していません。

**冬 春** ニホンリス  
 夜行性で、果実や種子、キノコ、昆虫、動物の骨などを食べる。琴平山では、山麓周辺でも時々目撃されるが、森の奥で出会うのは難しい。

**冬 春** キツネ  
 主に小型の動物を食べるが、果実類も食べる。昼間でも薄暗い林道でじっと観察していると、運が良ければ出合えるかもしれない。

**冬 春** ムササビ  
 夜行性で、目覚後の約20〜30分間、樹洞から出て、樹木の葉や花、実、種子などを食べる。琴平山では、普通に鳴き声や姿を確認できる。

**冬 春** ヒメネズミ  
 夜行性で、種子や果実類、菌類やキノコ、昆虫などを食べる。木のぼりが上手で、樹上でも生活する。

**冬 春** カゴノキ  
 乾燥に強いことから、雨の少ない瀬戸内の常緑広葉樹林を代表する樹種の一つとなっている。

**冬 春** イタビカズラ  
 樹木や岩をよじ登る常緑のツル植物。イチジク属の植物で、切り口から乳液が出る。

**冬 春** クロバイ  
 琴平山を代表する樹種の一つ。4〜5月頃に、よじ登りつづいた小花を咲かせる。

**冬 春** オガタマノキ  
 神事に用いるために金刀比羅宮境内でカサキとともに古くから植栽されている。琴平町の町木。

**冬 春** マメツタ  
 シダ植物の一種で、樹木や岩に葉をはわせる寄生植物。独特の丸い葉をつける。

**冬 春** ムササビ  
 夜行性で、目覚後の約20〜30分間、樹洞から出て、樹木の葉や花、実、種子などを食べる。琴平山では、普通に鳴き声や姿を確認できる。

**冬 春** アオネカズラ  
 シダ植物の一種で、根がまきれいな青緑になるのが名前由来。

**冬 春** サシバ  
 主にヘビ、トカゲ、カエル、セミ、バッタなどの小型の動物を食べる。

**冬 春** ルリビタキ  
 雑食性で、用虫、節足動物、果実などを食べる。地表や樹上を移動しながら食べ物を探す。

**冬 春** ニュウナイスズメ  
 春に桜の木にあつたり、花蜜を吸う。主に草の種を食べる。時々、昆虫も食べる。

**冬 春** ハイタカ  
 鳥類や昆虫類などを襲って食べる。顔の多くは小型の鳥類で、ヤブの中まで追いかけて捕らえる。

**冬 春** キウイタダキ  
 樹上で眠る幼虫、昆虫、クモ類などを食べる。ほとんど樹上で生活し、「ツツツツツツツツ」と鳴く。

**冬 春** アオバト  
 果実や種子を食べる。「オーアオー」等と聞こえる独特の声で鳴く。

**冬 春** イカル  
 主に樹上で生活し、木の葉や果の種子を食べる。時々、昆虫も食べる。

**冬 春** シロハラ  
 雑食性で、地面をピョンピョン跳ねながら昆虫やミミズ、木の葉を探して食べる。

**冬 春** クロジ  
 繁殖期には樹上で昆虫類やクモ類を食べ、それ以外の時期は地上で植物の種子などを食べる。

**冬 春** アオゲラ  
 主に木の幹や枝をつついて昆虫を食べるが、果実も食べる。「キョッキョ」と鳴く。

**冬 春** クスノキ  
 琴平山では大木が点々と生えている。中でも社務所前のクスノキはご神木である。

**冬 春** ムササビ  
 夜行性で、目覚後の約20〜30分間、樹洞から出て、樹木の葉や花、実、種子などを食べる。琴平山では、普通に鳴き声や姿を確認できる。

**冬 春** アオネカズラ  
 シダ植物の一種で、根がまきれいな青緑になるのが名前由来。

**冬 春** ムササビ  
 夜行性で、目覚後の約20〜30分間、樹洞から出て、樹木の葉や花、実、種子などを食べる。琴平山では、普通に鳴き声や姿を確認できる。

**冬 春** ヒメネズミ  
 夜行性で、種子や果実類、菌類やキノコ、昆虫などを食べる。木のぼりが上手で、樹上でも生活する。

**冬 春** マメツタ  
 シダ植物の一種で、樹木や岩に葉をはわせる寄生植物。独特の丸い葉をつける。